



北区伝統工芸保存会



発行・編集：北区地域振興部産業振興課  
〒114-8503 北区王子1-11-1 北とびあ11階  
TEL.03-5390-1235(ダイヤルイン)  
<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

刊行物登録番号：4-1-094

2023.02



東京都北区

江戸の手技を訪ねて

# 北区伝統工芸帖

桜の  
達人たち

## 北区伝統工芸保存会について

北区伝統工芸保存会は、歴史ある伝統的な技法や技術を継承していくとともに、その熟練した技と伝統工芸品に広く親んでもらうために、1992年（平成4年）11月に発足しました。

会員は、北区の伝統工芸品を手づくりしている様々な業種の作家や職人たちです。会員は伝統的技術・技法を守り続けながら、業種・品目を越えて交流を図るとともに、多くの人々が伝統工芸品に親しむ機会を作っていくなど、伝統工芸の保存と発展のために活動しています。



第30回北区伝統工芸展  
（令和4年9月）

### 第29回北区伝統工芸展「WEB開催」実施中！！

※職人たちが心を込めて制作した工芸品の数々と熟練の技を、42点の写真と16本の動画でご紹介しています。閲覧期限なく、いつでもご視聴いただけます！





## 北区伝統工芸保存会の活動

### 北区伝統工芸展

毎年9月には、伝統の技を継承する職人たちの実演、作品展示、体験など、伝統工芸品を身近に感じていただく場として、北区伝統工芸展を開催しています。



## 北区伝統工芸保存会の活動

### 伝統工芸出張体験講座

北区の未来を担う子どもたちに日本の伝統文化やものづくりの面白さを学んでもらうため、区内小学校や児童館で出張体験講座を行い、伝統工芸に関する知識や作品づくりの体験指導に取り組んでいます。



### 北区伝統工芸保存会×渋沢栄一翁 伝統工芸品開発

北区にゆかりのある渋沢栄一翁が、2021年大河ドラマの主人公に、2024年に新一万円札の肖像になることを受け、北区伝統工芸保存会では渋沢翁とコラボした新たな伝統工芸品の開発に取り組んでいます。



## 北区伝統工芸帖「桜の達人たち」目次

### 北区伝統工芸保存会会員

北区伝統工芸保存会について	2
北区伝統工芸保存会の活動	3~4
鍛金   奥山峰石 (相談役)	6
彫金   齋藤照英	7
東京仏壇   岩田芳樹	8
東京仏壇   岩田晴芳	9
東京仏壇   岩田隆	10
浮世絵木版画   沼辺伸吉	11
伝統木版画   沼辺伸伸	12
江戸べっ甲   森俊昭	13
江戸べっ甲   森孝裕	14
建具   藤澤稔	15
東京手描友禅   佐藤信男	16
江戸文字 風絵   志村康夫	17
縁起福熊手   芝崎善治	18
江戸表具   望月一志	19
江戸表具   相沢彰宏	20
銀細工   小島信重	21
銀細工   小島信一	22
とんぼ玉   なかの雅章	23
古型今戸人形   吉田義和	24
染付   高橋友穂	25
陶芸   酒井智子	26
江戸表具   我妻雅之	27
刀鍛冶   水木良光	28
北区伝統工芸保存会 桜の達人 MAP	29



# 鍛金 (たんきん)

金属の凜とした形と輝きの中に、自然の美を映す



打込象嵌壺《枝垂れ桜》



## 奥山峰石 Okuyama Houseki

1937年山形県生まれ。52年鍛金家・笠原宗峰氏に師事。64年独立、トロフィーなどを製作。77年鍛金家・田中光輝に師事。作家として日本伝統工芸展出品。01年北区東十条区民センター壁画制作。97年紫綬褒章、07年旭日小綬章を受章。95年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。東京都北区名誉区民。山形県新庄市名誉市民。東京都名誉都民。

鍛金とは、金属の一枚板を金槌で打ちながら器物を成形する技法です。写真の作品は、打込象嵌の技法によるものです。この打込象嵌は、鍛金制作した純銀の器の表面に花は銅、枝は赤銅を糸鋸で切り抜いた文様を接合し、叩いてめり込ませていく技法です。

人間国宝の奥山さんは、「打込象嵌」「切嵌象嵌」の技法で櫻・藤・樹木などの文様を表現する日本一の作家で知られています。創作のテーマを探し求め、旅先の山間にあった杉の木に心を惹かれたことが自然をモチーフに創作を始めたきっかけだそうです。

見学・体験をご希望の方へ

会員紹介には、工房見学や製作体験の受け入れができる場合、「見学」「体験」を入れました。内容・日時・人数等については事前にご相談ください。

北区西ヶ原4-44-12  
Tel.03-3915-2373

MAP 01



# 彫金

コツコツと打ち出し、彫り込み、愛すべき宝物が生まれる



金具(萩、魚、南瓜)、ペンダント



## 齋藤 照英 *Saito Shohei*

1938年生まれ。16歳で弟子入り、仕事に打ち込み15年で独立。打ち出しによる装身具、彫り、彩金など幅広い技をもつ。外国の美術館の美術品の修理を依頼されることもある。日本伝統工芸展出品、奥山峠石と北区の工芸作家展出品。日本工芸会工部会員、日本工芸会準会員。

彫金は、金属(金・銀・銅・合金など)の固まりや板などの素材を、タガネ(ノミのような道具)を使い模様を彫ったり、立体的に打ち出して形を作る技法です。齋藤さんの製作の主な流れは、①作品の色を想定し金・銀・銅などの配合を決め地金を作る。②金属をタガネで打ち出したり、模様を彫る。装飾として象嵌の技法により別の金属を嵌め込んだりする。③仕上げの色付け。溶液で煮て金属特有の色を引き出す。などです。

新たな作品作りへの思いを馳せ、先人の途絶えた技法を考察したり、齋藤さんの彫金への情熱は尽きません。

見学

Tel.03-5814-2438

要連絡(月~金/13:00~17:00)

MAP 02

工房：台東区谷中5-1-9 ●JR日暮里駅西口徒歩約8分

工房：北区滝野川3-56-10

# 東京仏壇

木地の持ち味を生かした簡素で荘厳な美しさ



本紫檀 支輪カスミ 50号



紫檀 七宝舞鶴 12号



## 岩田 芳樹 *Iwata Yoshiki*

1947年生まれ。68年父に師事し仏壇の製作に入る。93年東京都伝統工芸士認定。90年北区区民文化奨励賞。02年、03年東京都産業労働局長賞受賞。東京都伝統工芸技術保存連合会北地区会員。

家庭に仏壇を置くようになったのは江戸中頃からといわれており、東京、大阪が仏壇の2大産地でした。東京仏壇は、木地本来の持ち味を生かしたシンプルで丈夫な作りが特色。また「唐木仏壇」のひとつで、黒檀、紫檀などの唐木が素材でしたが、近年は桑、屋久杉なども使います。

仏壇作りは主に4つの工程(木地工程・彫刻工程・塗り工程・組立工程)があります。まず、木地の目合い、色合いの素晴らしい素材を選びます。大まかな設計図となる「もりつけ板」という部品の寸法を書いてある1枚の板を使い、この寸法に基づいて木材を削り、部品ごとに形にしていきます。唐木は固いので釘を使わない接着方法で組み立てます。

東京仏壇の特長でもある面の丸みややわらかさを現すためにヤスリでひとつひとつ磨いて作っていきます。手作りなので、角の丸みを変えたりその職人ならではのやわらかさや味も出てきます。「先祖があるから私たちがいる。仏壇の中には小さなお寺もある。大切にお参りしてほしい」と願っています。

# 東京仏壇

木地の持ち味を生かした簡素で荘厳な美しさ



紫檀 七宝菊紋様 16号



屋久杉 櫃 20号

# 唐木・銘木小物細工

仏壇製作の緻密な技術と高級木材を身近な小物にも



桑サジ面角型 20号



唐木小物細工14点



## 岩田 晴芳 *Iwata Haruyoshi*

1947年生まれ。68年父に師事し仏壇の製作に入る。96年北区区民文化奨励賞。02年東京都産業労働局長賞受賞。東京都伝統工芸技術保存連合会北地区会員。2019年東京都伝統工芸士認定。

家庭に仏壇を置くようになったのは江戸中頃からといわれており、東京、大阪が仏壇の2大産地でした。東京仏壇は、木地本来の持ち味を生かしたシンプルで丈夫な作りが特色。また「唐木仏壇」のひとつで、黒檀、紫檀などの唐木が素材でしたが、近年は桑、屋久杉なども使います。

仏壇作りは主に4つの工程（木地工程・彫刻工程・塗り工程・組立工程）があります。まず、木地の目合い、色合いの素晴らしい素材を選びます。大まかな設計図となる「もりつけ板」という部品の寸法を書いてある1枚の板を使い、この寸法に基づいて木材を削り、部品ごとに形にしていきます。唐木は固いので釘を使わない接着方法で組み立てます。

東京仏壇の特長でもある面の丸みとやわらかさを現すためにヤスリでひとつひとつ磨いて作っていきます。手作りなので、角の丸みを変えたりその職人ならではのやわらかさや味も出てきます。「先祖があるから私たちがいる。仏壇の中には小さなお寺もある。大切にお参りしてほしい」と願っています。



## 岩田 隆 *Iwata Takashi*

1974年生まれ。2000年(有)岩田仏壇製作所入社。11年東京都伝統工芸品の伝統的技術技法の継承発展を認められ東京都産業労働局長より表彰される。21年東京都伝統工芸士認定(20年度)。東京都伝統工芸技術保存連合会北地区会員。

東京仏壇の素材である唐木は、熱帯地方から日本へ輸入された銘木全般の総称で、紫檀、黒檀などが有名です。唐を経て輸入されたことから「唐木」の名称が付きましました。強い硬度と美しい木目が特徴で「木のダイヤモンド」と呼ばれることもあります。芳樹さん、晴芳さん、そして隆さん（晴芳さんの息子）は、東京仏壇の製作で培った緻密な技術、技能を活かして、箸や組子コースター、ペーパーナイフ等の唐木・銘木小物も作っています。「日常生活で使う小物から、高級木材の良さを感じてほしい」という願いが込められています。

見学・体験

Tel.048-269-3500

要連絡(月~金/8:00~18:00)

MAP 03

工房/埼玉県川口市前川2-32-3 Fax.048-269-3500

●国際興業バス「前川二丁目」バス停すぐ

有限会社 岩田仏壇製作所

本社事務所/北区志茂2-4-9 Tel.03-3901-1693

URL:<https://twitter.com/tokyobutsudan>

<https://www.instagram.com/iwatabutsudan/>

<https://iwatabutsudan.localinfo.jp>



# 浮世絵木版画

木版画でしか出し得ない色と  
表情のある木版美を追求



浮世絵木版画  
葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」  
摺師:沼辺伸吉



摺師:沼辺伸吉(画家・彫師:吉田遠志)



沼辺 伸吉 Numabe Sinkichi

1952年生まれ。76年23歳の時、摺師・中条甲子雄氏に師事。79年木版画家・吉田遠志氏に師事。浮世絵木版画・現代版画・創作版画など木版画全般の摺りを職業とする。98年北区内区民文化奨励賞、10年伝統工芸士(国認定)、12年伝統工芸士(東京都認定)。

世界に誇れる浮世絵木版画は、江戸時代に誕生しました。古典音楽や古典芸能など同じように、楽譜やテーマが同じでも時代や人が変わっても常に新たな感覚で表現されています。北斎や歌麿も作り手によって常に素晴らしい可能性を持って生み出されます。従来の複製木版画という価値観ではなく、新たな価値観として常にオリジナル性のある作品ということです。素晴らしい作品と思われるような木版画を作り世界に発信をしていきます。

見学・体験 Mail : numabe.wbp@gmail.com  
Fax : 03-3911-7164 ※要連絡

北区堀船1-15-10-611 ●JR王子駅南口徒歩約9分

合同会社 沼辺木版

Twitter : @NumabeWbp



# 伝統木版画

沼辺木版は浮世絵木版画の技術を基本に  
新しい分野の木版画にも挑戦します



新版画「踊る狐」(画家:小原古邨)



新版画「紫陽花に雀」(画家:小原古邨)



沼辺 広伸 Numabe Hironobu

1991年生まれ。23歳の時アタチ版画研究所に摺師として入社し、5年間の修行を経て独立。父、伸吉と合同会社沼辺木版を設立し、摺師として活動している。

伝統木版画に代表されるものには、大きく ①浮世絵木版画、②新版画、③現代版画 があります。原画の作り方はそれぞれ異なり、また摺師以外にも職人が関わります。①では、絵師が原稿を描き、彫師が版木に彫り、摺師が絵師の指示に従い試摺りをして完成させます。②では、彫師が既存の絵を色分解して彫った版木を、摺師が絵画に近づけて仕上げます。③では、絵師自身が絵と色分解した原稿を描き、彫師が版木に彫り、摺師は版画家の指示に従い試摺りをして完成させます。②と③は①の技術を基盤として発展させたものです。摺師は、全分野の作品を摺ります。

# 江戸べっ甲

上品なべっ甲の輝きに、新たな魅力を施す



グランドピアノ(ペンダント)、イワトビペンギン(ペンダント)、貝のかんざし、平打マキエかんざし、貝のペンダントブローチ、カメオのペンダントブローチ、亀のペンダント、月と星のペンダント、水晶のペンダント



森 俊昭 *Mori Toshiaki*

1942年長崎県生まれ。父の跡を継ぎ2代目に。92年JJAジュエリーコンテスト通産省生活産業局長賞。97年北区産業人顕彰。01年東京都伝統工芸士認定。01年東京都優秀技能賞。北区未来を拓く産業人顕彰。日本宝飾クラフト学院講師。

べっ甲業は約400年におよぶ歴史をもち、奈良県にある東大寺の正倉院にも髓甲を使った宝物が残っているなど非常に古くからある伝統工芸産業です。

原材料となるのがカリブ海、インド洋の赤道付近に生息するタイマイというウミガメの甲羅で、大きいものは全長180cm、体重200kgにもなります。

タイマイは絶滅危惧種としてワシントン条約以降国際取引が禁止され、1993年以降は全面輸入禁止となりました。現在は養殖されたタイマイの甲羅も流通し始めていますが、私たちが使っているのは、条約締結前に仕入れた天然の素材です。

細工の工程は、①甲羅から生地を数枚切り出し、製品の形と模様が上手く合うよう組み合わせる ②接着面を滑らかに磨き、水につけ、熱した鉄板に挟み圧力をかけて貼り合わせる ③形を整え磨きあげて仕上げる です。水での湿らせ方や温度、圧力の加減などが仕上がりを左右すること、非常に薄い甲



スクエア型ペンダントブローチ、イワトビペンギンのペンダント、龍のペンダントブローチ、バラのペンダント、お月様のペンダントブローチ、土星のペンダントブローチ、カメオのペンダント、ハートのペンダントブローチ、貝のペンダントブローチ



森 孝裕 *Mori Takahiro*

1976年生まれ。2018年に前職である美容師を離れ、父俊昭氏に師事し髓甲細工に従事する。美容師時代の経験を活かしアクセサリを中心に製作する傍ら、三味線の撥や簪、帯留等、伝統的な和装装飾具などにも積極的に取り組んでいる。

羅で作品に応じた厚みを作る必要があること、装飾として蒔絵・彫刻・象嵌などを施す様々な加工を行うことから、長年の経験と熟練の技がものをいいます。「磨いた時に表れる美しい光沢」が最大の魅力である髓甲は、櫛や簪など和装に合う伝統的な装飾具や三味線の撥、眼鏡のほかデザイン性を高めた現代のアクセサリまで、幅広い世代の方に愛用されています。

見学・体験

Tel.090-3965-1391

MAP 05

Mail : kawatababekkou@gmail.com

要連絡(月~金/13:00~17:00)

体験費用/¥1,500(2時間程度)

髓甲教室

第2第4水曜日13:00-17:00

第2土曜日 13:00-17:00

都度払い 初回¥4,000

(2回目~¥3,000)

お気軽にお問い合わせください。



Web



Instagram



Line



# 建具

木のぬくもりを伝え、部屋の品格を高める手作りの仕事



あやめ障子

# 東京手描友禅

生地に描き染めていく日本の自然と伝統美



手描友禅振袖  
「霞取り四季草花尽くし模様振袖」



藤澤 稔 *Fujisawa Minoru*

1945年生まれ。藤澤建具店に入社し、職人としての技術を獲得。父の後を継ぎ2代目社長となる。現在は取締役会長。近年は建具の他、伝統の技術を生かし店舗、家具なども手掛けている。職業訓練指導員として後継者の育成に努めており、社員が技能オリンピック銀メダルを受賞。

日本家屋の代表的建具の一つである障子は、組子の本数・細かさ・組み方・素材などで様々な意匠があります。写真の障子はあやめの模様に入組を入れる組子細工の技法を用いており、材料の選定から、木取り・加工・組立てと手作りで仕上げられています。

「三宅島から避難し帰還を果たした方に、新築の際に建具を納品したところ、”わが家自慢の建具”と感謝の便りを頂きました」と嬉しそうに藤澤さんは語ります。

見学

Tel.03-3911-4692

要連絡(月~金/9:00~17:00)

MAP 06

Eメール: minoru@mokkobo.com

木工房 藤澤 株式会社

<http://www.mokkobo-f.com/>

北区堀船2-3-12 ●都電荒川線梶原停留所徒歩約3分

Fax.03-3911-4776



佐藤 信男 *Sato Nobuo*

1945年生まれ。林仙水氏に師事。独立し、創作活動や染色教室を開設している。日本伝統工芸染織展、東京都染芸展等にて入選。最近では都立王子総合高校市民講師として若者に伝統工芸の魅力を伝えている。東京都伝統工芸技術保存連合会北地区会員。

手描き友禅は江戸中期に宮崎友禅齋が創始した、布に模様を描き染めていく技法です。生地に青花(露草からとった染料)で下書きをし、染料がしみ込むのを防ぐ糸目糊(もち米が主成分)で堰をつくることで、緻密な模様を描くことができます。色付けは独特の刷毛を使い、刷毛一筆で濃淡を描き分けたり、友禅特有のボカシを入れることができます。友禅は手作りの一点もの。佐藤さんは図案を決める草案作りにこだわり、伝統と実用美(着姿)を追求しています。写真の作品は、吉祥文様の霞取りに雪輪、七宝、亀甲、清海波などを配し、華王とよばれるボタンに芍薬、菊、椿、梅、桜などで華々しくし、年中行事にマッチする様に工夫されています。本金・銀の型箔と金線で仕上げ、刺繍をあしらえ、より豪華にしています。

見学

Tel.090-8845-2629

要連絡(月~金/10:00~17:00)

MAP 07

1回4~5名まで 北区王子4-2-11

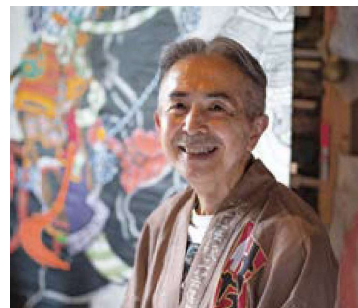
●JR東十条駅南口徒歩約9分 Fax.03-3919-6361

# 江戸文字 凧絵

江戸凧の特長、歌川派の華やかな凧絵技術を継承



鑑賞用凧絵  
水滸伝(すいこでん)  
「張順水門破り」(せうじゆんすいもんやぶり)  
90cm×66cm



## 志村 康夫 Shimura Yasuo

1949年生まれ。歌川派最後の凧絵師・橋本禎造氏より凧絵技術を修得。石原裕次郎CM用、桑田佳祐等著名人の祝凧製作他、栃東関の化粧回しのデザインも手掛ける。毎年各地で個展を開催。90年米オレゴン州世界凧大会・凧絵アート部門グランプリ。東京都伝統工芸技術保存連合会理事。

江戸の庶民の遊びとして隆盛を極めた凧。凧づくりの主な流れは、まず、丈夫な和紙に絵柄を墨線で描きます。歌川派の武者絵は「けがき」が命といわれ、鬣の躍動感、筆勢で雰囲気が変わります。次に透明感のある染料で色付けします。その後の工程「骨付け」「糸目付け」の具合で凧の揚がり方が違ってきます。

歌川派の凧絵技術を継承する志村さんは「凧の楽しみ方の5つ ①絵を描く ②作る ③揚げる ④創作 ⑤飾ることを分かりやすく伝えていきたい」と語ります。

見学・体験 Tel.03-3901-7667  
要連絡(10:00~18:00) MAP 08

1回4名まで / 10~50歳位の方 / 1人2500円 / 招き猫を描き骨を張り河川敷で凧揚げ体験(約2時間)  
北区志茂5-39-2 ●JR赤羽駅東口徒歩13分、東京メトロ南北線赤羽岩淵駅1番出口徒歩約6分

# 縁起福熊手

福を呼ぶように縁起物を華やかに飾る



縁起福熊手



## 芝崎 善治 Shibazaki Zenji

1964年生まれ。父に師事し家業を継ぎ3代目となる。王子芝善は、明治時代から続く熊手商で、浅草西の市、地元北区王子神社熊手市などの市に熊手商「王子芝善」として出店。伝統の熊手の他、インテリアとしての現代的なアイデア熊手も提案している。

福をかき込むといわれる熊手。定番の熊手といえば、おかめ、升を配置し上に松、両端にタイを取り付け、鶴、亀、小判、俵などの縁起物を盛り付けた飾り熊手です。

11~12月の熊手市に向けて、1月から下準備を始め、飾りのひとつ一つに糊で竹串を付けたりと、膨大な数の部品作りに精を出します。毎年12月6日に行われる王子神社の熊手市に足を運べば、熊手を買ったお客さんと芝崎さんが「商売繁昌、家内安全!!ヨ〜」と手を締める、いなせな場面に出会うことでしょう。

見学 Tel.090-1451-9906  
要連絡(月~金/10:00~17:00) MAP 09

※11月および12月の見学は、受付けておりません。  
北区王子本町2-21-3 ●JR王子駅北口徒歩約10分  
Tel.03-3909-7356



# 江戸表具

大切な宝物をていねいに  
鑑賞・保存するために



左：掛軸「奥山峰石書」

右：掛軸「四国八十八ヶ所札所巡り」



望月 一志 Mochizuki Kazushi

1947年生まれ。父に師事し、この道に入り54年。掛軸・額装・屏風を製作、古い掛軸の修復を手掛ける。雅号は望月光雅堂。東京表具経師内装文化協会会員。14年東京都伝統工芸士認定。

表具とは、裂地または紙を、糊を用いて張り合わせ、掛軸・巻物・経本・書画帖・額・屏風・衝立・襖などを作り上げることです。表具をする職人を表具師または、経師ともいいます。かつては仏教の経巻を表具をする職人を経師といいました。

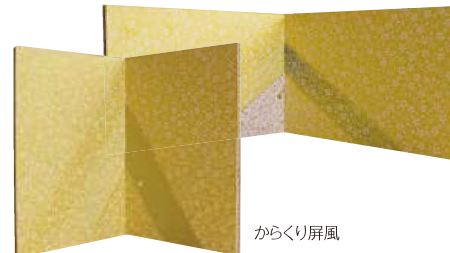
掛軸作りの主な工程は、本誌（書画）や布地の裏に糊で紙を張って補強し、その各部分をつなぎ合わせた上でさらに全体を総裏打ちし、最後に軸先などの付属品を付けます。「大切なものを預って作るので緊張しますがやりがいを感じます」と望月さんは語ります。

有限会社 望月光雅堂  
北区滝野川1-38-1 Tel.03-3915-2341

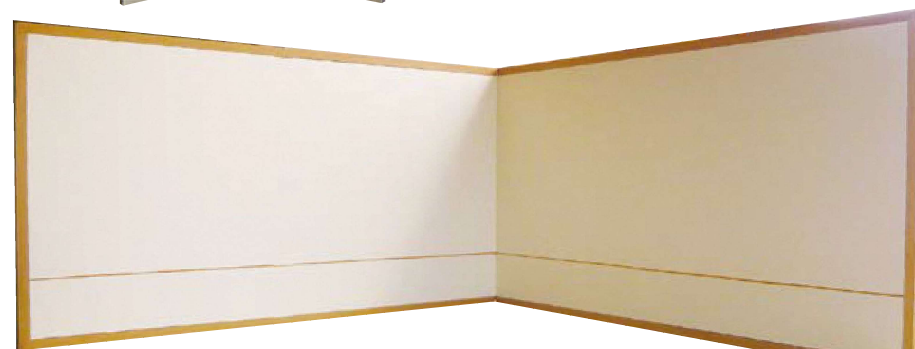
MAP 10

# 江戸表具

身近な楽しみ方を提案するからくり屏風



からくり屏風



風炉先屏風（ふるさきびょうぶ）



相沢 彰宏 Aizawa Akibiro

1943年生まれ。父の後を継ぎ2代目に。屏風をはじめ、襖、障子、額装、インテリアなど幅広く手掛ける。東京表具経師内装文化協会第一期卒業。表具技能士1級合格。東京表具経師内装文化協会会員。※写真は、相沢さんが、望月一志さんと協力し江戸時代の掛軸を修復した時のものです。

表具をする技術は、掛軸をはじめ衝立、屏風、襖、天井・壁張りなどに生かされています。表具は床の間の発生や茶道により需要が増え、江戸時代には上流社会に欠かせない美術工芸・調度品となりました。

写真の風炉先屏風は茶室で使われるものです。屏風作りの主な工程は、骨格の上に下張り、上張りの順に紙を張り重ね、最後に外枠の縁をはめ込みます。

からくり屏風は、江戸時代から伝わるからくり玩具「パタパタ」の技術を生かしたもので、板をひっくり返すと裏返しになり縦にも横にも使えます。「伝言を挟んだり、絵・写真・ドライフラワーを飾って現代のインテリアとして楽しんで使ってほしい」と相沢さんは薦めています。

平安堂 相沢表具店  
北区田端1-7-15 Tel.03-3828-1310

MAP 11

# 銀細工

粋な遊び心が光る美しい小物たち



銀製 帯留 金魚(素銅・赤銅)、銀製 瓢箪のかんざし



とんぼ玉と七宝の銀製とんぼ(コラボ作品)



打ち出し銀製ひざご金具、切嵌め満月にネコ帯留、切嵌め夕刻の月帯留



二代目 小島 信重 *Kojima Nobuhige*

本名小島功・1939年生まれ。15歳で初代信重に師事。その後、叔父・恵雲の元で、末次派の鉚起の技術で銀製置物の製作に従事。11年「銀工房こじま」設立。06年度北区きらりと光るものづくり顕彰きらめきの技人部門。12年度東京マイスター。

銀細工は、江戸から伝わる鉚起工芸の技術を用いて貴金属、特に銀を中心にした帯留・かんざしなどの小物や装身具・置物を細工したものです。

主な工程は、①糸ノコによる切り回し・透かし、タガネによる彫りなどの技術で細工。②ロウ付けにより金属を接続。③磨きには炭を使い鏡のようにつやを出す。銀はやわらかく傷付きやすいので難しい作業という。④仕上げの色あげで、秘伝の溶液につけこみ地金の色の変化を引き出す。写真の帯留の金魚の色は、地金の銅の色を引き出した色あげの技術によるものです。

「昔から、帯留の飾りで季節を先取りし、お洒落を楽しむのが粋とされてきました。出来上がった品を見てお客さまが喜んでくれるのが何よりも励み」という

信重さん。江戸・鉚起工芸末次派の技術を極めた、父・初代信重に弟子入りし、その技を継承しました。

息子の信一さんは、このまま末次派が消えてよいのかと、三代目を目指すことを決意。「伝統を守るために異業種ともコラボし、現代にも即した銀細工の可能性を拓きたい」と夢を語ります。



小島 信一 *Kojima Nobukazu*

1973年生まれ。デザイン事務所勤務を経て、06年銀工房こじまに入房。三代目を目指し精進している。製作の他、グラフィックデザイナーの経験を生かし、企画・意匠を担当。

## 銀工房こじま

北区上中里3-21-4 Tel.03-3913-1536  
<http://www.ginkouboukojima.jp>  
 Eメール: info@ginkouboukojima.jp





# とんぼ玉

小さなガラス玉の中に表現する、多彩な世界



とんぼ玉「赤ずきん」



とんぼ玉とマイクロモザイク



## なかの 雅章 Nakano Masaaki

1971年生まれ。93年日本宝飾クラフト学院卒業、体験とんぼ玉を始める。スペインへ留学。00年「おしゃれ工房海津屋」とんぼ玉教室主催。06年北区未来を拓くものづくり表彰、09年ビーズグランプリ・ガラス玉部門大賞、11年東京都伝統的工芸品チャレンジ大賞・優秀賞・奨励賞、17年東京マイスター受賞、18年北区区民文化奨励賞受賞。19年モザイク展佳作。

とんぼ玉とは色模様を入れたガラスのビーズで、古くは紀元前3千年から世界各国で作られてきました。日本では江戸時代に流行し、当時主流だった柄がとんぼの目に似ていたのでこの名称になったといわれます。主な工程は、ガラスを火で溶かしながら金属棒に巻きつけ、他の色ガラスで絵柄を付け、ゆっくり冷ましてから棒から抜きます。なかのさんは金太郎飴のような方法で作る緻密な細工を得意とし、面白いと感じたデザインをジャンルにとらわれず作っているそうです。

**体験** Tel.03-3927-2217 MAP 13  
 要連絡(金・土・日/10:00~15:00)

体験は、金・土・日/10:00~12:00、13:00~15:00/  
 1人3850円

とんぼ玉工房 海津屋 <https://kaizuya.tokyo/>  
 北区東十条4-7-18-2F ●JR東十条駅北口徒歩約4分

# 古型今戸人形

江戸庶民に愛された土人形を、昔ながらの姿で再現



2016年度日本民芸館展  
日本民芸協会賞受賞作品



丸げ猫(上から2段目、左から3つ目)、  
おかめの火入れ(右上)など



## 吉田 義和 Yoshida Yoshikazu

1963年生まれ。大学では絵画を専攻。日本人形玩具学会会員。30年来にわたり江戸から明治期に伝わってきた伝統の江戸明治の今戸人形の再現を目指して研鑽を積んでいる。

かつて隅田川・荒川流域で盛んだった東京を代表する焼物「今戸焼」。その傍ら土人形も作られ江戸～明治と人気を博し落語や錦絵にも登場します。特に「丸げ猫」は招き猫の元祖ともいわれ浅草で大流行しました。吉田さんは当時の古い人形や文献、遺跡からの出土品を研究。土は、隅田川・荒川流域から採取、精製して人形を焼き、当時と同じく、膠・胡粉・泥絵具などで絵付けしています。「戦前まで続いていた本来の姿を伝えたい」と吉田さんは情熱的に語ります。

**見学** Eメール: [kabusan@athena.ocn.ne.jp](mailto:kabusan@athena.ocn.ne.jp) MAP 14

要連絡(メールでお願いいたします。)  
 北区赤羽南2-15-11 ●JR赤羽駅徒歩約10分  
 Tel.03-3901-8572  
 古型今戸人形 WEBページ <http://imadoki.server-shared.com/>  
 古型今戸人形 ブログ <https://blog.goo.ne.jp/imadoki3>

# 染付

器に描いた文様を鮮やかに染め付ける



「雪輪松文」五寸皿・「流水菊 棕櫚文」五寸皿・「天神信仰」五寸皿

「桜文」コーヒーカップソーサー



高橋 友穂 Takahashi Yuubo

1980年生まれ。染付歴14年。主に器状に形成した素地（磁器と土）に絵付けを施したものを主として制作。佐賀県有田の窯元にて勤務の後、北区にて制作を開始し、星野兼三氏に師事する。埼玉県内にて陶芸教室インストラクターとして勤務。13年4月より東京都立王子総合高等学校市民講師。2015年度「北区きらりと光るものづくり顕彰」技人部門受賞

染付は磁器に絵付けする技法のひとつで、白地に青（藍色）で文様を表したものを指します。一般には磁器に多く施されますが、高橋さんは関東に多い土物の陶器にも絵付けをしています。主な工程は、焼物の素地（低温で焼いたもの）に呉須というコバルト系の絵具で絵付けし、その上に釉薬をかけ本焼成します。高温で焼くと呉須は青色に発色し、釉薬はガラス質になります。「多くの人に器の模様や表情を楽しんでほしい」と高橋さんはいいます。

見学・体験 Mail: [sometuke.yuu@gmail.com](mailto:sometuke.yuu@gmail.com) (要予約)  
Tel: 03-3907-9474 (Fax兼用) MAP 15

- ◆体験教室実施日：毎週水曜日、第4週目の火・木曜日、第1・2週目の土曜日  
※1日あたり1～2名様程度の受付  
※ご予約の際に希望日と時間帯をお選び下さい  
①10:00～12:30 ②13:00～15:00 ③16:00～18:30
- ◆体験費用：お一人様¥3,500～

染付工房 一可  
WEBページ <http://yuho-ceramics.chu.jp>  
公式ツイッター <https://twitter.com/zcgaseNdP9yWYKV>  
公式インスタグラム <https://www.instagram.com/sometuke.yuu/>

# 陶芸

釉薬で描く表情豊かな色彩と模様



丸皿

絵皿：鳥

急須



酒井 智子 Sakai Tomoko

1960年生まれ。武蔵野美術短期大学工芸デザイン科陶芸専攻卒業。陶芸教室講師、ZO造形クラブにて子供の絵画・造形を指導。92年サカイ工房を設立。日本クラブ展入選4回。著書「お茶の美味しい陶芸」など。TV:BS日本テレビ「キッズピーン」(全7回)に出演、子供の陶芸を企画・指導。北区陶芸会会長。2017年度「北区きらりと光るものづくり顕彰」技人部門受賞

陶器は釉薬をつけて焼成すると釉はガラス質に変化し、土の表面をコーティングします。写真の作品は石膏型を作り、そこに土を被せ、手でなじませ成形した器です。

金属を釉に調合して、白や青の色釉を作り、スポイトを使って模様を描いています。

「日本は器文化の豊かな国。経験を生かした食器作りをしたい。」と酒井さんの陶芸への夢は広がります。

見学・体験 Tel.03-5974-3868(Fax兼用) MAP 16  
要連絡  
(火～金13:00～20:00/日月は定休)

体験は、1回2500円(材料費込み)、約2時間  
陶芸教室サカイ工房 北区西ヶ原2-40-12-1F  
●東京メトロ南北線西ヶ原駅2番出口を左、3軒となり  
<http://www.sakaikobo.net/>



# 江戸表具

伝統的な技術を現代に活かすことをモットーに



三曲屏風「賑わす屏風」  
中央に透かし襖の技法を取り入れている。  
第59回「表装・内装作品展」の  
「全国表具経師内装組合連合会会長賞」受賞作品。



創作ミニ屏風



## 我妻 雅之 *Azuma Masayuki*

1959年生まれ。建具職の家に生まれ、大学に通う傍ら、建具の技を習得。その後、表具店で表具の技術も学ぶ。平成28年度「北区きらりと光るものづくり顕彰」の「きらめきの技人部門」にて受賞。一般社団法人東京表具経師内装文化協会理事。東京都伝統工芸士、厚生労働省ものづくりマイスター。

京表具が公家好みの雅な趣きをもつ<sup>みやび</sup>のに対し、江戸表具は武士や町人の文化と密接な関係があり、江戸小紋などを用いた粋でしゃれたデザインが特色です。我妻さんは、襖<sup>ふすま</sup>、屏風<sup>びょうぶ</sup>、額装、障子、壁装において江戸表具の伝統的な手法を伝えると共に、手漉和紙や表装裂地を融合させた作品を創作しています。

我妻さんは、東京表具内装職業訓練校で伝統的な技能を伝える教育に尽力しており、「伝統的な和柄を気軽に生活空間に取り入れられるよう、親しみをもってもらええる作品づくりを続けたい」と抱負を語っています。

太雅堂 我妻表具内装  
北区浮間2-25-16-2F Tel.03-3969-8151  
masayukiazuma58@gmail.com



# 刀鍛冶

「砂鉄、木炭、炎、土、水」日本の五行が生み出す究極の鋼の美



太刀 号「迎楼羅」

刀身写真 白木 良彦



刀鍔（目釘抜き）



むすひのまもり（玉鋼鍛錬地）



## 水木 良光 *Mizuki Yoshimitsu*

1983年生まれ。武蔵野美術大学彫刻科を卒業。東京都無形文化財 吉原義人と葛飾区無形文化財 吉原義一に入門。2011年文化庁より作刀承認を受ける。2015年新作名刀展「短刀・剣の部」優秀賞。2016年新作名刀展「彫金の部」努力賞。2017年名物刀剣「栗研藤四郎」の復元作刀。2019年度「北区きらりと光るものづくり顕彰」技人部門受賞。2020年東京マイスター受賞

日本刀は歴史が古く、様式が確立されたのは平安時代にまで遡ります。長い歴史の中で時代に応じ連綿と継承され今日にまで伝承されてきました。

国宝およそ千点の中の約一割あまりが刀剣であり、いかに鋼の美が尊ばれていたかがわかるでしょう。

刀剣の魅力である美しさは機能美から生まれています。「姿・鋼・刃文」いずれも欠ける事は許されません。その輝きは昔から神器や宝剣として大切にされ、人々の心の支えになっていました。

「御守刀として持つ人の心を鼓舞し、時に安らかな気持ちを与える。そんな心に響く刀を作りたい」と水木刀匠は目を輝かせていました。

星宿堂 Tel.03-5924-4111  
http://yoshimitsu3.html.xdomain.jp/index.html  
twitter: @yosimitu\_sword



# 北区伝統工芸保存会 桜の達人MAP



- 01 鍛金 奥山峰石
- 02 彫金 齋藤照英 (右下MAP)
- 03 東京仏壇 岩田芳樹 (右上MAP)  
東京仏壇 岩田晴芳  
東京仏壇 岩田隆
- 04 浮世絵木版画 沼辺伸吉  
伝統木版画 沼辺広伸
- 05 江戸べっ甲 森俊昭  
江戸べっ甲 森孝裕
- 06 建具 藤澤稔
- 07 東京手描友禅 佐藤信男
- 08 江戸文字 凧絵 志村康夫
- 09 縁起福熊手 芝崎善治
- 10 江戸表具 望月一志
- 11 江戸表具 相沢彰宏
- 12 銀細工 小島信重  
銀細工 小島信一
- 13 とんぼ玉 なかの雅章
- 14 古型今戸人形 吉田義和
- 15 染付 高橋友穂
- 16 陶芸 酒井智子
- 17 江戸表具 我妻雅之
- 18 刀鍛冶 水木良光

